

平成28年度 福井県立ろう学校 学校関係者評価書

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価書の成果と課題が適切か。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切か。 ・その他
<p>(意見を聞いた方)</p> <p>元本校教員（1名） ろう学校PTA会長（1名） PTA副会長（1名）</p>
<p>(意見欄)</p> <p><幼稚園・乳幼児教室>以下の報告について、特に御意見なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的にものや人にかかわっていけるような設定遊びの環境を整えることに取り組んだ結果、保護者全員が自分からものや人にかかわって遊ぶことが増えたと回答。言語力も向上した。 ・乳幼児の保護者向け学習会を年7回以上実施し、保護者の満足度も高かった。 <p><小学部>以下の報告について、特に御意見なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力向上のために様々な読書推進活動に取り組み、家庭での読書推進を図った。成果が得られたが、児童、保護者のアンケートでは目標を達成できなかった。アンケートの方法に課題があったと考えられる。読書活動について保護者との連携も図りたい。 <p><中・高等部>以下の報告について、特に御意見なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ態度の育成に努め、自立に必要な学力の定着を図ることを重点目標に据えた。一人一人の課題に取り組み、目標を達成できたが、取組の状況を保護者に適切に伝えることができなかつたため、今後は連携を密に取りながら取組を継続したい。 <p><指導・保健部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の見直しを図り、地震や不審者の避難訓練は助言を受けて臨場感のある訓練ができた。医療的ケアの訓練も、カードを使って具体的な行動が分かるように工夫し、教職員の意識が高まった。 <p>○職員玄関は鍵を掛けていないが防犯上大丈夫か。</p> <p>A：職員玄関には事務室があり、学校に入る人が確認できるので施錠していないが、今後は施錠を含めて対応を検討したい。</p> <p><組織運営>以下の報告について、特に御意見なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での取り組みとして、教員の時間の確保をねらって、会議の効率的な運営に取り組んだ。職員会議は35%の時間が削減されたが、運営委員会は新たな議題があり、3%増加した。 <p><その他></p> <p>○ろう学校では手話を使うようになったが、そのことによって現在のろう学校はどういう状況なのか。また、人工内耳の子どもが増えているが、自己のアイデンティティーがきちんと確立されて卒業できるのか。</p> <p>A：以前とは障害認識に対する教員の意識が違う。子どもたち一人一人に応じた教育が行えるように、校内での研修システムなどによって教員同士の学びがあり、ろう教育の専門性が高まっている。手話に限らず、個々のニーズに対応している。</p> <p>○教育内容について関係者さえも知らないのでは、現状が理解されていない。ろう学校の教育をもっと世間に認知されるよう積極的に広めてほしい。</p> <p>A：以前と比べて、障害のある子どもに支援をするのが当たり前になり、地域でも支援されてうまくいっている子どもが多い。ろう学校の教育を理解啓発して広めるといよりも、地域の学校でできるように支援をしている。</p> <p>A：病院との連携ができてきており、新生児スクリーニングで要精検となった子どもは全てろう学校に来る。必要な子どもには支援の場が確保されている。</p> <p>A：個々のニーズに合わせて手話、聴覚口話の指導をしている。交流学习に取り組み、その中では教職員や子どもたちに理解をしてもらえるように働きかけている。地域の障害を持つ子どもは増えているが、ろう学校の子どもの数は減っている。これからろう学校に来る子どもが増えるように取り組んでいきたい。</p> <p>○「ちゃん」付けで呼ばれるのは、子ども扱いされているようでいやがっている。</p> <p>A：教職員に周知する。</p>
<p>(学校関係者評価を踏まえた今後について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な御意見や御指導を真摯に受け止め、次年度に生かしていきたい。